

資料3 業務指標の推移

区 分	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度
給水区域内人口（人）	146,199	146,555	147,847	148,902	149,271	149,630	149,907	149,635	149,779	149,894
給水人口（人）	146,069	146,418	147,710	148,765	149,134	149,562	149,830	149,556	149,700	149,820
普及率（%）	99.90	99.90	99.90	99.90	99.91	99.95	99.95	99.95	99.95	99.95
配水量（m ³ ）	18,436,370	18,631,286	18,422,927	18,281,458	18,111,957	17,878,264	18,237,543	18,171,794	18,174,788	17,899,486
うち自己水（m ³ ）	1,131,920	1,114,380	907,900	836,350	648,890	383,380	51,270	0	121,470	2,707,810
うち県水（m ³ ）	17,304,450	17,516,906	17,515,027	17,445,108	17,463,067	17,494,884	18,186,273	18,171,794	18,053,318	14,991,676
配水量に対する自己水の割合（%）	6.14	5.98	4.93	4.57	3.58	2.14	0.28	0.00	0.67	15.30
配水量に対する県水の割合（%）	93.86	94.02	95.07	95.43	96.42	97.86	99.72	100.00	99.33	84.70
一日最大配水量（m ³ ）	61,260	59,090	58,641	58,340	58,324	54,912	57,809	54,063	54,913	53,316
一日平均配水量（m ³ ）	50,511	50,905	50,474	50,086	49,622	48,848	49,966	49,786	49,794	48,359
一人一日当たり配水量（ℓ）	345.8	347.7	341.7	336.7	332.7	326.6	333.5	332.9	332.6	322.8
有効水量（m ³ ）	17,331,202	17,429,627	17,316,538	17,202,656	17,236,549	17,028,071	17,350,522	17,381,426	17,408,873	17,218,565
有効水量（m ³ ）	16,932,614	16,984,425	16,907,813	16,798,127	16,829,651	16,635,235	16,949,670	16,966,550	16,857,349	16,838,926
有効率（%）	94.00	93.55	93.99	94.10	95.17	95.24	95.14	95.65	95.79	97.28
有効率（%）	91.84	91.16	91.78	91.89	92.92	93.05	92.94	93.37	92.75	95.14
総収支比率（%）	100.3	107.3	104.4	100.5	101.9	105.3	117.1	110.6	112.7	112.8
営業収支比率（%）	107.6	115.3	111.9	108.7	109.4	114.6	116.0	118.5	113.1	119.4
経常収支比率（%）	98.1	107.4	104.4	101.0	101.8	104.6	106.4	109.2	106.7	110.4
供給単価（円）	143.67	161.59	161.87	160.85	160.56	159.14	160.85	161.04	160.65	160.41
給水原価（円）	153.16	160.51	172.74	172.69	170.83	164.85	166.56	160.22	164.08	159.19
料金回収率（%）	93.80	100.67	93.71	93.14	93.99	96.54	96.57	100.51	97.91	100.77
施設利用率（%）	77.0	71.1	72.7	72.1	71.5	70.3	70.8	92.1	69.2	67.2
施設最大稼働率（%）	93.3	82.5	84.4	84.0	84.0	79.1	81.9	100.0	76.4	74.1
負荷率（%）	82.5	86.1	86.1	85.9	85.1	89.0	86.4	92.1	90.7	90.7

- ①普及率は、給水区域内に居住する人口に対する給水人口の割合で99.95%となっている。一部で地下水を利用している世帯があるが市内全域に普及している。
- ②配水量は、平成15年度を除き、毎年1,800万m³を確保していたが、平成19年度は1,770万m³と大幅に減少している。
- ③配水量に対する自己水の割合は、年々減少傾向にあったが、平成19年3月に新しい鍵山浄水場が完成したことから平成19年度は15.3%となっている。
- ④一日最大配水量は、年間の一日配水量のうち最大のものをいう。平成10年度は6万m³を超えていたが、ここ2、3年は5万4,000m³前後となっている。
- ⑤一日平均配水量は、年間に配水量をその間の日数で割ったもので、平成14年度以降は4万9千m³前後で推移していたが、平成19年度はさらに減少している。
- ⑥一人一日当たり配水量は、一日平均配水量を給水人口で割ったもので、平成19年度は配水量の減少に伴って約322ℓとなっている。
- ⑦有効水量は、配水量のうち水道事業の運営上有効と見られる水量で、平成15年度以降の有効率は95%を超えている。
- ⑧有効水量は、年間の料金徴収の対象となった水量をいうが、有収水量は1,680万m³前後で、有収率については平成19年度を除き93%前後で推移している。
- ⑨総収支比率は、総費用が総収益によってどの程度賄われているかを示すもので、平成16年度以降は110%を確保し、概ね健全な経営となっている。
- ⑩営業収支比率は、営業費用が営業収益によってどの程度賄われているかを示すもので、この10年間の平均は113%となっている。
- ⑪経常収支比率は、経常費用が経常収益によってどの程度賄われているかを示すもので、平成19年度は110%を上回っている。
- ⑫供給単価は、有収水量1m³当たり、どれだけの収益を得ているかを表すもので、平成11年度以降は1m³当たり160円前後となっている。
- ⑬給水原価は、有収水量1m³当たり、どれくらいの費用がかかっているかを表すもので、平成15年度から160円台で推移していたが、平成19年度は159円台になっている。
- ⑭料金回収率は、給水にかかる費用のうち水道料金で回収する割合を示しているが、ここ2、3年では平成17年度と平成19年度が100%を上回っている。
- ⑮施設利用率は、一日当たりの配水能力に対する一日平均配水量の割合を示したもので、水道施設の経済性を判断する指標であり、平成17年度を除き70%前後で推移している。
- ⑯施設最大稼働率は、一日配水能力と一日最大配水量の割合を示したもので、水道事業の施設効率を判断する指標であり、平成17年度を除いて概ね80%前後で推移している。
- ⑰負荷率は、一日最大配水量と一日平均配水量の割合を示したもので、数値が大きいほど効率的であるとされる。平成17年度以降は90%を超えている。